

「神の平安」 ピリピ4：6，7

I 「何も思い煩わないで」 1. 思い煩うの原語：分け、分離させ、私達の心をそらさせるものを指す為に使われる言葉。「心があれやこれやに分かれる事」。心が分散する。「心が分かれるのです」(I コリ7：34)。思い煩いとは、すべてを支配しておられる神に心が集中せず、あれやこれやと心が分かれ、分散し、分裂する事。2. 私達の弱さ：神を信頼する心が裂かれ、分かれてしまう。①過去への空しい後悔の心。②主から目を離して、現在の問題にだけに心を奪われ、ふさぐ心。③将来の事を想像しどんどん恐れ、心配を自分で大きくしてしてしまう。選択が人生の鍵。

II 思い煩わない秘訣。聖書に見事な答えがある。それは、「思い煩わないぞー！」と自分の力で頑張っても無理。ほとんどの場合「駄目、駄目」と言う消極的な方法では解決しない。悪いものを出すためには、心の中にもっと良いものを積極的に入れる必要がある。思い煩いの思いを出す最善の積極的な方法は、心の中に神を、神の恵みを深く思う思いを入れる事。聖書のアプローチ(方法、手掛かり)→「心配するのはやめなさい(消極的的命令)…神の国とその義(神の正しさ、御心、聖さ、神との正しい関係)とをまず第一に求めなさい(積極的的命令)。それに加えて、これらのものはすべて(真に必要なもの)与えられます」(マタ6：31、33)。本日の4：6でも、まず問題の解決をこうしなさいと言われずに、まず、神との関係をしっかりと持つ事が語られる→何も思い煩わないで→「あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい」：6。「あらゆる場合に」：すべての事の中で、何事につけ、どんな事情の中でも。「感謝をもって」：これが非常に重要！私達は思い煩いに心が支配されてしまうと(⇔神の国とは神の支配。神の国を求めるとは、思い煩いが心を支配する事がないように、自分の心の王座に神を迎え、心を神に支配していただく事)、今、現在も与えられている十分な主の恵み(「わたしの恵みはあなたに十分である」II コリ12：9)が見えなくなり、感謝を忘れてしまう。思い煩う困難な中でこそ、御聖霊が与えられる意志で、意識的に主の恵みを数えて感謝する。主の恵み=与えられている食べ物、着物、住まい、命、手、足、目、口、耳、鼻、腰、関節、主の救い、赦し、義認、神との和解、永遠の命、神の子供とされている恵み、神の大きな愛、主の十字架と復活の恵み、御聖霊の内住、交わり、主を信じる信仰、素晴らしい神を礼拝できる教会、土地、建物、会堂返済の奇蹟的守り、教会での交わり、祈りの支え、人生での良き出会い、ただただ神の恵みで今日まで生かされ神に愛されている事。数えきれない恵み！※4：6の御言葉に従い、礼拝2部の最後に祈り合う時、①感謝と②祈って欲しい課題。ディボーションの時、ノートに感謝を記し感謝をささげる。その後、課題も正直に祈る。そこに大きな祝福がある。「主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな」(詩103：2)。まず神に感謝する時、私達の心は神に向く。しかし感謝を忘れた課題、要求だけの祈りは、私達の心を神に向けることなく、祈りの中でも、神にではなく、その問題に心が捕われている事がある。だから聖書の順番が非常に大切→「感謝をもって」。「ささげる祈り」：自分の願いを神に告げる前に、まず礼拝と神を崇める祈りをする。神の前に静まり、まず自分が今、偉大な神と向かい合っている事を知る。自分が神の臨在される場にいる事を認め、崇敬の心を注ぎ出す。「主の祈り」も同じ。「天にいます私たちの父よ。御名があがめられますように」(マタイ6：9)。次に「願いによって」。願いも正直に祈る事が大切。但し、最初に、願い、要求ではなく、神の恵みを数

え感謝し（これは、より良い人間関係にも当てはまる）、神を崇め、今、自分はどんなに素晴らしい偉大な神の前にいるかを自覚し、祈る対象の神を知って初めて願う事ができる。今、心に重荷となっている事柄、問題を具体的に祈る事ができる。心（感情、辛さ、うめき）を注ぎ出すことができる。そのようにして、神のもとに重荷を降ろす。「神に知っていただきなさい」：6 →神は全知全能の方なので、私達が祈る前に、すでに私達のすべてを知っておられる。しかし、神は私達の御父として神の子供である私達を愛しておられるので、私達との交わりを喜び、私達が正直に心を打ち明けて祈り、願いを知らせるのを喜ばれる。神に打ち明ける事は素晴らしい恵み。神とますます親しくなる。神とも人とも親しくなるには時が必要。親しくなる条件は、時間と同時に誠実さ。神は私達を心から愛して最善の事をして下さる。

Ⅲ 「そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます」：7。神の平安は、人のすべての考えにまさるもの。神の平安は、不思議。神が共におられる平安。神が心に与えて下さる平安。神がすべてを支配しておられると信頼し、安んじる平安。「あなたがたの心（感情、意志等の源泉）と思い（考え、思い）をキリスト・イエスにあって守ってくれます（原語：見張る、警備する、守る、保護する）」：7。神の平安は、私達の乱れ易い不安定な心、感情、思い（私達の思いは、想像力で、ますます思い煩いを増長させてしまう）を守って下さる。御言葉の深い点は、神が私達の辛い状況をすぐになくすとは言われてなくて、辛い状況の中でも、その辛い状況に対処する私達の心と思いを守って下さる。ここでも「キリスト・イエスにあって」とある。やはり、私達と主との命の通うつながり、深い関係が大切。常に、最も大切な事は、神、主との関係、深いつながり。この地上では、皆、困難、問題、悩みはある。その中で、平和の主としっかりつながり、主にとどまり、主に拠り頼む時、神の平安に満たされ、神の平安は、私達の心と思いとを守って下さる。「思い煩いをいっさい神に委ねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです」

I ペテロ 5 : 7